

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第2回） 議事録

会議名	安平町ゼロカーボンシティ推進協議会（第2回）
日時	令和6年3月26日（10:00～11:15）
出席者 （敬称略）	<p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 安平町 町長 及川 秀一郎</li> <li>• 安平町 副町長 田中 一省</li> <li>• 安平町商工会 会長 小林 正道</li> <li>• 安平地区連合自治会 会長 佐々木 弘</li> <li>• 早来地区自治会連合会 会長 三浦 一</li> <li>• 追分地区町内会連合会 会長 真保 立至</li> <li>• 石川 英俊（WEB参加）</li> <li>• 宮崎 晃行</li> </ul> <p>【アドバイザー】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 北海道大学大学院地球環境科学研究院 教授 山中 康裕</li> <li>• 北海道地方環境事務所地域脱炭素創生室 企画係長 桂 愛子（代理・WEB参加）</li> <li>• 北海道銀行 安平エリア統括早来支店長 山内 淳</li> <li>• 北海道ガス株式会社経営企画部経営企画グループ 課長 宮澤 智裕（WEB参加）</li> <li>• 北海道電力株式会社 田中 英樹（代理・WEB）</li> <li>• 北海道電力ネットワーク株式会社 道央南統括支店長 松井 利顕（WEB参加）</li> </ul> <p>【事務局】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 安平町 税務住民課 参事 佐々木 智紀</li> <li>• 安平町 税務住民課 課長補佐 畠山 津与志</li> <li>• 安平町 政策推進課 課長 渡邊 匡人</li> <li>• エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 高島 誠</li> </ul>

	<p>太郎</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>エイコーエナジオ株式会社 事業アドバイザー 中尾 敏夫 (WEB 参加)</li> <li>株式会社 DG ネットワーク 事業アドバイザー 北野 史人</li> </ul>
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> <li>安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料 (第 2 回)</li> <li>安平町地球温暖化対策実行計画 (事務事業編)・付録 R6.3 策定</li> </ul>

## 1. 開会

安平町ゼロカーボンシティ推進協議会設置要綱第 6 条第 1 項の規定に基づき、及川町長が議長となった。

及川町長から挨拶が行われ、また設置要綱に第 6 条第 2 項の規定に基づいて本会が適正に開催されたことが説明された。

## 2. ゼロカーボン推進に向けた直近の状況共有

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料 (第 2 回)」に基づいて説明が行われ、以下の意見交換・質疑応答が行われた。

### 【意見交換・質疑応答】

- あびら環境フォーラムの際には、北海道経済部と胆振総合振興局から参加いただいた際に、水素自動車を持ってきていただいて、水素自動車の実演を行なった。(議長)
- 調査を行なったエネチェンジの設置候補地はどこか？ (委員)
  - 既に現地調査を実施した場所は、総合庁舎と総合支所、スポーツセンター、あけぼの団地駐車場。ラピアは調査したが設置スペースが不足していたため除外。来月に各公民館と JR 追分駅前駐車場について、現地調査予定である。(事務局)

### 3. 重点対策加速化事業の申請について

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第2回）」に基づいて説明が行われ、以下の意見交換・質疑応答が行われた。

#### 【意見交換・質疑応答】

- 本計画の再生可能エネルギー導入量が 1.4MW というのは、実際の発電は 15～20%程度なので 0.2MW であるが、安平町全体では 6MW なので、その 3～3.5%が削減となる。少々小さめではあるが、最初の一步としてはちょうど良いと思う。道内他自治体の事例と比べても無理のない計画である。（アドバイザー）
- 水素発電が計画されているのは面白い点で、苫小牧で水素を作る計画があるため、その需要先になるには良いアイデアと思う。ただし、環境団体からすると苫小牧の水素は CCS と組み合わせた化石燃料由来のグレー水素である。このような CCS はブリッジテクノロジーと呼ばれていて、再生可能エネルギーで水素を作る理想に一気に行けないので、その中間としての手当である。（アドバイザー）
- 安平町の場合はどうしても太陽光発電が一番多くなりそうだが、夜間には発電をしないので、蓄電池や水素発電を組みわせるのは良いと思う。公用車の EV 化も計画に入っているが、もちろん EV は蓄電池としても最適である。一般市民に EV がすぐに広まるのは難しいかもしれないが、ラピダスができて所得の高い人が流入することで、EV が普及していく可能性が考えられるので、町として EV を推進しているのはアピールになる。（アドバイザー）
- 本計画は、全体として今あるベストの形になっていると思うが、欲を言うと教育の部分ももっとあると良いと思う。ただし、これは重点対策加速化事業ではないかもしれない。（アドバイザー）
  - 教育は安平町にとっては強みになっていく部分だと思っているので、次世代リーダーの育成というところについては、今後の計画の中で活かしていければと思う。（議長）

- 本計画において、自営線の敷設にはどの程度の経費がかかるのか？（委員）
  - 非常に高い。1.5km くらいで 1 億円程度かかる。この費用は蓄電池とは別である。自営線については、基本的には災害時に活用することを想定しており、通常時は太陽光発電の電気は自家消費を行い、その分について電気代を支払っていただくことを想定している。（事務局）
- 今の所の電気を使う対象は公共施設のみか？（委員）
  - 今回の計画は公共施設のみだが、町内全体に進めていくには民間企業や個人住宅の屋根への太陽光発電の設置や、ソーラーシェアリングを進めていく必要がある。個人住宅については、単純に屋根に太陽光発電を載せるだけではなく、断熱性を高める等の対策と合わせて行なっていく必要があるので、そこに対しては公的な補助が必要と考えている。なお、今回の重点対策加速化事業への申請の際に、環境事務所から個人住宅に関する重点対策加速化事業ではない補助メニューを教えていただいたので、重点対策加速化事業と並行して進めていきたい。（事務局）
  - 住宅に太陽光発電を新設する際の補助があったと思うが、これはどこから出ているのか？（委員）
    - 町からは出ていないが、国から出ている。（事務局）
    - 町からはリフォームに関する助成を行なっているが、ゼロカーボン関係では、財源の関係上、新しい支援メニューをまだ出せていない。（議長）
- 地域電力会社は採算をとりながら安定供給を維持していかないといけない。資本も自分たちで出して、最初は儲からないと思うが、そういった仕組みを作って進めていくことを目指すというのは評価できる。（アドバイザー）
- 重点対策加速化事業については競争率が非常に高いが、採択されなかつ

た場合にもゼロカーボンへの取り組みが止まることがないように、北ガスとしても協力したい。(アドバイザー)

- 重点対策加速化事業については、1年に一度しか申請機会がないためまずチャレンジした。何か修正が必要なことがあれば、また来年3月にチャレンジしたいが、それまでゼロカーボンの取り組みを止めることがないように、町内の体制を厚くしたり、地域おこし協力隊や企業の方にも協力いただいたりしながら取り組みを進めていくことを内部で打ち合わせしているところなので、次回の協議会の際にご意見をいただきたい。(議長)

#### 4. 地方公共団体実行計画（事務事業編）の策定について

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第2回）」並びに「安平町地球温暖化対策実行計画（事務事業編）・付録 R6.3 策定」に基づいて説明が行われた。

#### 5. あびら環境フォーラムの開催について

事務局より、「安平町ゼロカーボンシティ推進協議会説明資料（第2回）」に基づいて説明が行われ、以下の意見交換・質疑応答が行われた。

##### 【意見交換・質疑応答】

- 再生可能エネルギーによって、エネルギー自給率を向上していく必要がある。ゼロカーボンについては、国も道も2030年までに約半減という目標を掲げているが、半減とゼロカーボンは全く異なる。ゼロにするには社会の仕組みを変革する必要がある。北海道の電気は再生可能エネルギー40%になった。これはすごいことだが、電気以外の部分が残っている。これは電化したり、水素で賄ったりする必要がある。(アドバイザー)
- 今ではスコープ3という考え方に時代が移行していて、製品の生まれた時から廃棄するまでの間にCO2がどれだけ出るかを気にしなければなら

らなくなった。私たちは買い物の際に CO2 を出さないものを選ぶことができる。こういった意識の変容は、環境教育で一番問題だと言われているが、これができれば安平町が良くなると思う。(アドバイザー)

- 再生可能エネルギーは不安定で、電力供給を安定させているのは火力発電だが、安平町には南早来変電所があって、北海道全体の電力供給を支えている。(アドバイザー)
- 国全体の電力を支えるために、北海道の電力需要よりも大きい規模の洋上風力を北海道に建設して海底送電線で本州に送ることを国は計画しているが、北海道で電力需要が新たに生まれればそれを分けてもらえる。その象徴がラピダスだったり、ソフトバンクのデータセンターだったりする。前者は 0.6GW、後者は 0.3GW 程度あり、札幌市が年間平均で使っているのは 1GW くらいなので、電力需要においては札幌市がもう 1 つ生まれるような状況になる時代が今から来る。それとは別に地産地消で、自営線を引いたりといったことも重要。2050 年までの 30 年弱の間に、社会の風景が変わっていくが、同時に町が暮らしやすく笑顔が溢れているような姿にならないといけないので、そのための話し合いを始めよう、という話を環境フォーラムで行なった。(アドバイザー)

## 6. その他

- 安平町ではコンポストの事業をやっているが、堆肥を地域の中で循環させる動きと合わせながら、その進化形で食品廃棄物をバイオガス化していく方法があると考えられるが、北海道全体ではどのような状況になっているのか？(事務局)
  - 私の専門外の分野なのでこの場ではすぐに回答できないが、調べてみたい。なお、このようにアイデアが出て、私のような者が回答する、という雰囲気は協議会にとって有益と考えるので、進めていきたい。(アドバイザー)
- 情報提供だが、3月22日に自治体の森林資源を活用した森林カーボン

クレジットの勉強会があった。すぐに始めるかは別として、こういった取り組みについても進めていくことが必要と考えている。(議長)

7. 次回協議会について

事務局より、6月25日(火)の10時から次回の協議会を開催予定であることについて説明があった。

8. 閉会